

# 稲作だより

第 2 号  
育苗前期編

令和3年4月8日発行  
最上総合支庁農業技術普及課  
Tel 29-1329 (稲作担当)

## 十分な浸種ときめ細かな温度管理を心がけましょう！

昨年は登熟期間が高温で経過したことから、**種子の休眠が深いことが想定されます**。積算水温を十分に確保しましょう。

4月に入り、平年と比較すると最高気温が5℃程度高い日も見られます。今後、育苗期間中に日射が強く、高温傾向となった場合、**高温障害(苗ヤケ)**や**ばか苗病**の発生が懸念されます。きめ細かな温度管理を心がけましょう。

### ◎床土の準備 ~培土 pHを確認!~

育苗培土の適正 pH は、やや酸性の **4.5~5.5**

自分で育苗培土を用意したり、ピートモス等を混合する場合には、必ず pH を確認しましょう。

### ◎浸種 ~温度管理をしっかり!~

**水温 10~15℃、積算水温 100~120℃が目安**

浸種初日の水温が低いと発芽率が低下します。**浸種初日の水温が 10℃以上**になるように、水温が低い場合は温水を加える等の対応を行いましょう。

### ◎催芽 ~芽の状態をよく確認!~

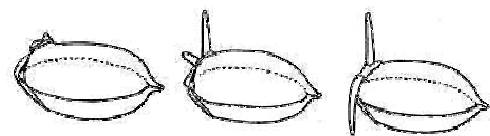
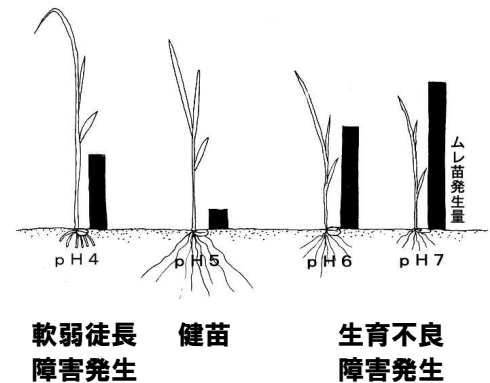
催芽の基本は、**水温 30~32℃、20 時間浸漬**

芽の不揃いや過度な伸長を防ぐためにも、芽の状態を確認しながら催芽しましょう。

※ ヒメノモチは伸びやすいので特に注意を！

### ◎播種 ~苗の種類と播種量を確認!~

播種時のかん水は十分に行いましょう。水分の不足は発芽不良や不揃いの原因となります。また、培土の代わりに育苗マットを使用する場合は、特に水分不足に注意が必要です。



○ハト胸

×伸ばしすぎ

芽が切れて損傷を受ける

「播種ムラ」が生じる

#### < 苗の種類と一箱当たりの初量の目安 >

| 苗の種類 | 乾燥初重     | 催芽(ハト胸)初重 | 箱数/10a | 育苗日数       | 葉数             |
|------|----------|-----------|--------|------------|----------------|
| 稚苗   | 150~180g | 188~225g  | 25     | <b>25日</b> | <b>2.2~2.5</b> |
| 中苗   | 80~120g  | 100~150g  | 30     | <b>35日</b> | <b>3.2~3.5</b> |

## ○育苗管理

育苗期の灌水には可能な限り水道水や井戸水を使用しましょう。  
適温を超えるとばか苗病等が発生しやすくなるため、注意しましょう。

### <出芽～出芽揃いまで>

#### 出芽適温は、30～32℃

芽が覆土から5～10mm伸びた状態まで出芽させます。

##### ①加温出芽の場合

出芽日数の目安は約2日間ですが、芽の伸びをしっかりと確認しましょう。

##### ②無加温出芽の場合

低温時は出芽の遅れや不揃いになりやすいため、保温資材を適切に活用しましょう。出芽に日数がかかる場合、灌水すると覆土が固まり、出芽が不揃いになってしまいます。

高温時は障害（苗ヤケ）の危険が高まります。ハウスの開閉や適切な被覆資材の使用で、温度管理を徹底しましょう。また、軟弱徒長を防ぐために、芽揃いを確認したら遅れずにポリマルチ等を除去しましょう。

### <緑化期（出芽完了後2～3日間）>

温度管理は右表を参考に行いましょう。

低温時の保温や日射しが強い際の遮光等、被覆資材を活用し徐々に外気温に慣らして緑化を進めましょう。

#### <育苗管理の温度>

| 時期    | 温度     |      |
|-------|--------|------|
|       | 昼間     | 夜間   |
| 緑化期   | 25℃    | 15℃  |
| 緑化期以降 | 20～25℃ | 8℃以上 |

### <緑化期以降>

かん水の基本は、十分な水量で午前中に1回です。過湿とにならないよう注意しましょう。

### <プール育苗>

プール育苗は、1.5葉期に箱上まで入水し（カビ等の好気性の病害の発生抑制）、ハウスを開放しましょう。プール状態を保てるよう、均平や水漏れ対策など事前の準備を丁寧に行いましょう。

## ○苗の障害対策 ～育苗期間中の主な病害と対応～

地際部や根周辺のカビ、生育異常等が見られたら早めにご相談ください。（下表）

| 病名               | 症状(原因菌)                                | 原因                       | 対応                   |
|------------------|--|--------------------------|----------------------|
| 苗立枯病<br>(総称)     | 土の表面にクモの巣状の白いカビ(リゾプス菌)                 | 出芽時の高温多湿、厚播き             | 高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する。 |
|                  | 地際部や根周辺にピンク色のカビ(フザリウム菌)                | 低温、pH5.5以上の床土、乾燥、過湿      | 低温を避け、土壌の湿度を適切に維持する。 |
|                  | 地際部に緑または白いカビ(トリコデルマ菌)                  | 緑化期前後の低温、保水力が小さく、pHが低い培土 | 低温、乾燥を避ける。           |
| 苗立枯細菌病<br>もみ枯細菌病 | 第2葉身の真ん中から基部にかけて黄変または白化、伸長停止し、その後枯死する。 | 出芽後の高温・過湿                | 高温・過湿を避け、発病した苗は廃棄する。 |

※種子消毒に「タフブロック」「エコホープ」等を使用した場合、種子の周辺にカビがみられる場合がありますが、資材由来のカビであれば苗の生育に害はありません。（タフブロック（黄色） エコホープ（濃い緑色等））

**4月10日～6月10日は春季農作業事故防止運動強化期間！**  
**農作業は、準備万端に、気を引き締めて！ STOP 農作業事故！**